

# 医療・環境保全・農村開発

## 母と子の命を守る助産所事業、若い担い手が育っています

### 貴重な戦力として、日々新しい命と向き合う新卒のモナリサ



産後の処置を終えて母親に赤ちゃんを手渡すモナリサ（左）

5月末、凶弾に倒れた夫ハッサンの事件の真相究明が進まぬ中、眠れぬ夜を過ごすことも多いというナプサさんを支えて、今年助産師コースを卒業したモナリサは、すでに一人で赤ちゃんを取り上げるなど実績を積んでいます。コロナによる国家試験延期で、次のステップであるプロバイダー資格取得もお預けとなっていますが、自宅出産のリスクを避けて、助産所の門をたたき妊産婦にしっかり対応できています。この時期何よりも重要なコロナ感染対策も、入念な消毒等を事務スタッフとこなしています。なお、8月から10月中旬までの2か月半の出産は17件、初産や高齢出産で総合病院に照会の事例は9件と、コロナ禍でも昨年を上回る介助ができています。

### 臨床検査技師として助産所を支えたい — オンライン受講で頑張るザイラ —

看護師ゴルディマリと助産師モナリサの計2名（ほか中退2名）の医療従事者を育成したJOFPA基金奨学金。5人目の受給者として臨床検査技師コースのザイラが決まりました。ただし基金残高が残り少ないため、改めてザイラ支援のお願いをさせていただきます。医療系は学費が高額のため、月額3,000円のカレッジ奨学金会費で不足する分は教育全体支援会費で支えたいと思っています。



### PIHSのコミュニティ活動の財源、ヤギ9匹が2年で42匹に増えました！ — ムジャ地区短信 —

保健ボランティアの活動や母と子のコミュニティスクール財源として、会員のご寄付充当のヤギは順調に数を増やしています。一方、これも会員の寄付により建設した幼児教室は、マラウイ避難民が帰郷して子どもの数は減りましたが、コロナで遅れた新年度クラスが間もなく始まります。ヤギの糞尿利用の果樹や野菜作りも順次進める予定です。

## アグロフォレストリー事業 苗木成長と販売先開拓

### 無農薬バナナ栽培に心強い助っ人 バランゴンバナナ



レイクセブ町のバランゴンバナナ集荷場で、ジェームズさんとアニータ先生

先住民族学校 ILS 校長で、私たちが過去に支援したバナナ栽培を含むアグロフォレストリー事業のモニターや住民指導を引き受けてくれたアニータ先生、事業地域や学校農園の無農薬バナナの引き取り先として、バランゴンバナナのジェームズさんに会い販路についての相談をしました。かなり良い感触を得たそうで安心しました。

### コロナで遅れているクロッド地区の事業モニター



アボカド（左）と在来種ナラ

農業専門家ボニファシオに託した2年前の事業地域クロッドのアグロフォレストリー評価活動は、町域を超えた移動制限で進んでいません。前号で報告の苗木の写真のみお届けします。

### コロナで販路が課題のハンディクラフトによる収入向上事業

— 頼みはコロナダル市内の大学売店 —



NDMU 売店に並べられた LIS 校父母のビーズや籐細工

今年度からヤギやアヒル飼育支援を通じて本格的にかかわることになったレイクセブ辺境の先住民族学校/ILS からは、父母の収入源である籐や竹、ビーズ細工などのハンディクラフト情報も届くようになりました。数量は限定的ですが、学校が買い取り、セブ湖畔の土産物店に卸したり、コロナダル市内の大学 NDMU の民族文化紹介コーナーで展示即売してもらってきたようです。しかし、コロナでレイクセブ町の販路がたたれて、今は、NDMU が唯一残る販路となっています。アニータ先生が父母等生産者から製品を引き取り、NDMU 等人脈頼みの販売は限界があります。コロナ禍を機に、生産者の組織化や販路開拓研修の企画が始まりました。

### ビビアンさんありがとう！安らかに！ — また一人大切なパートナーを失いました —

アグロフォレストリーやブラクール支援など、PFP との協働が始まった2002年以降大変お世話になったビビアンさん。「今朝亡くなりました。肝臓がんでした」第一報は9月16日、SCM時代同僚だった元COWHEDマネージャー・ジェマさんからでした。ビビアンさんには、3年前の助産所竣工式に当団体の代理で参列いただいたので、PIHSのナプサさんにも訃報をお知らせしました。「ハッサンの時にお悔やみの電話をいただいたばかりなのに」と急逝を悼む返信をいただきました。



現地訪問時のスケジュール調整役でもあったビビアンさん、お世話になりました！